

染色加工企業

活用すればRFID読み取り機で枚数を簡単に確認でき、作業の大幅な効率化を図ることができる。

社長は「経験則で色の混取り機で枚数を簡単に確認でき、作業の大幅な効率化を図ることができる。2020年7月期は減収を見通す。少子高齢化で学生服の着用人口は減少しており、ファッション衣料の販売も振るわない。染料の高騰も追い打ちを掛け、今後は昨年より引き続き加工料金の改定も進める方針だ。

色を再現する。菱川純治

製品ブランドを通じ技術力発信

CF活用し商品打ち出し

山陽染工（広島県福山市）は、自社製品ブランド「D・ハッセンワークス」を通じて技術力の発信に力を入れる。同ブランドは、部分的に色の抜け具合を変え、ことで濃淡を表現する独自の技術、段落ち染を生かしたもので、2018年にクラウドファンディング（CF）を通じて段落ち染のフーナーを発売して以降、さまざまな商品を開発してきた。

昨年10月には、グループ会社の中国紡織（福山市）が製造する、調温素材「アウトラスト」使用のデニムに段落ち染を施したジャケットとパンツを、CFを活用し発売。50万円の目標額を大きく上回る約365万円の支援を集めた。

先月からは中国紡織の刺し子風デニムを採用し

するとともに、製品ブランド事業部立ち上げも計画。リアル店舗取り扱いも、福山市外の常設店販売を自指し営業を進める。

マルチカラーに対応

小口や多品種も強み

森保染色

チーズ染色や原料染め、総かせ染めを行う森保染色（愛知県一宮市）は、高い技術力で多種多様な需要に応え続ける。尾州産地を本拠地とする森保染色は、ウール以外に天然繊維から合繊までさまざまな染色加工を可能とする。最近はこの素材の染色加工の比率も増え、他産地からの需要にも応える。ニースの細分化と多様化が進む中で、小ロット・多品種・

マルチカラーの供給を積極的に行う。主力とするウールの染色技術向上への取り組みも精力的だ。天然染料使用で環境に配慮した草木染めや、ウールの風合いや特徴を引き出すといった染色加工の幅を広げ、種類を追加した。早川典雄社長は「染色加工を通じてウールの良さや特徴を知ってもらいたい」と訴求点を語る。

インテリアや椅子張り伸ばす

市況悪化で新たな柱の育成を

尾張整染

尾張整染（愛知県二宮市）はカーテンなどのインテリア関連や椅子張りの地向けの加工を伸ばす。カーシート地の染色加工を主力とするが、自動車の生産台数が落ち込んでくるため、インテリア関連などを新たな柱として育てる。

自動車を生産の落ち込み

創業以来60余年、衣料用天然繊維生地での染色整理加工分野で、匠の技術を発揮し、新しい物創りに邁進しています。

創業1913年(大正2年)
創立1948年(昭和23年)

歴史も信頼も継いで“今 未来へ”